

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100505
法人名	社会福祉法人 恵光会
事業所名	グループホーム 光の丘
所在地	福岡県福岡市南区若久団地9-1
自己評価作成日	令和3年 3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	令和3年3月23日	評価結果確定日	令和3年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

原病院が母体の施設で他にも特別養護老人ホーム、グループホーム、老人保健施設などの施設があり連携を図っています。入居者様おひとりずつに主治医がいるため日々の体調観察や、急変時の対応など連携がとりやすくなっており、ご家族からも安心できるというお声を多くいただいています。
 コロナ禍で外出が難しいので3階の芝生の広場で、日光浴をしたり、散歩をしたりして気分転換を図っています。また、月ごとに誕生会やイベントを行い、歌やゲームなどで楽しく過ごしていただけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街の中にある4階建ての建物の2階に位置し、建物内には系列施設である特別養護老人ホーム、看護小規模多機能型居宅介護施設もあり、様々な場面で連携を図っている。コロナ禍のため、地域との交流や外出を控えている状況であるが、落ち着いた建物内に地域の方を招いてイベントを行ったり、外出して交流を図っていくつもりである。母体の医療機関が近隣にあり、利用者それぞれのかかりつけ医がいるため、相談、検査、処置がすぐできるようになっており、安心できる環境である。職員同士でのコミュニケーションがしっかりとれており、チームワークがととも良く、職員が働きやすい環境であるため、職員に心の余裕があり、利用者へのより良いサービスの提供につながっている。事業所内の色々な所に利用者職員と一緒に作った季節の飾りものがあり、とても和やかで居心地のいい空間である。開設1年目で課題もあるが、全職員で試行錯誤しながらより良い事業所になろうと努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼をしているので、スタッフで復唱し共有していきたい。	利用者が住み慣れた所で地域との交流も大切にしながら安心して過ごすことができるようにしたいとの思いをこめて理念をつくり、フロアミーティングや朝礼で話し合ったり、復唱して共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍で外に出ることが難しいが訪問理美容の方が来所してくださっており、入居者様も楽しみにされている。	コロナ禍のため外出は控えているが、近所を散歩した際に地域の方にお会いしたり、廃品回収に参加したりして、できる限り交流している。今後は、清掃活動にも参加していくつもりである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後推進会議などで発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在書面にて実施しているため意見交換が難しいが、意見をいただくこともあるのでサービス向上に活かしていきたい。	民生委員、町内会長、地域包括支援センター、福岡市の方に参加を呼びかけ、2ヶ月に1回開催している。現在は電話や書面で取り組みや現状について報告を行い、アンケート調査や書面にて意見を出して頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の案内状や議事録を送っている。今後はホームだより等を準備し、定期的に発信していきたい。	市町村担当者にはわからないことがあった際は相談している。今後は事業所や利用者の様子がわかる写真を掲載したホームだより等を作成し、家族だけでなく市町村にも発信していくつもりである。	ホームだより等を通して市町村担当者と密に連絡をとり、より気軽に相談できるような協力関係が築けることに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会で勉強したことをスタッフに伝達し、職員同士声を掛け合い、身体、精神的行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人の委員会や研修で身体拘束について学んでいる。スタッフ同士で相談や声掛けをして利用者の思いを把握し、利用者が安全に過ごすことができるような環境を整え、身体拘束をしなくていいような工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の委員会に参加し、スタッフに報告することで職員一人ひとりが注意を払い防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいらっしゃるので情報共有して学んでいきたい。今後パンフレット等を準備していく。	現在制度を利用している方、利用予定のある方がいるが、全職員が制度について詳しいわけではないので、研修などへの参加や、事業所内での回覧、パンフレットの準備などを通して知識の強化を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は2名で行い、ご家族様や利用者様の不安が少しでも軽減できるように説明を行うようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、いつでも記入できるようにしている。契約時にも案内している。	意見箱の設置、日常のコミュニケーション、訪問時、電話などで意見、要望を収集している。意見を頂いた際はミーティングを開き、対策を検討してできるだけ反映させるようにしているが、できない際は、できない理由をきちんと説明して納得していただいている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カウンターに業務改善や困りごとなどを入れる箱を設置。いつでも記入できるようにしている。また、スタッフにこまめに声を掛けるようにしている。	朝礼や終礼、ミーティングの際に話したり、意見をメモに記入して管理者のレターケースに入れてもらうなど、職員の意見を聞く機会を設けている。職員から出た役割分担を決めて欲しいとの意見を反映し、分担表を作成したことがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	外部研修などに参加できるようにしており、年に3回自己評価も行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用は特に性別や年齢等の条件はない。様々な部署がある為、個人に合わせて配属も可能。スタッフの得意なことを発揮できるように、委員会や役割分担をしている。	性別や年齢に制限なく採用している。工作や音楽など、各々の特技を生かせる場をつくったり、委員会などで役割を持ってもらったり、毎月職員も楽しめるような行事を開催するなど、生き生きと勤務できるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修等に参加し、スタッフ間で共有している。	研修内容を回覧して全職員に伝達している。また、朝礼、終礼、ミーティングの際にも人権教育、啓発活動に取り組んでいる。コロナ禍が落ち着いたら、また外部研修へ参加したり、内部研修することなどを考えている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修に参加。興味のある研修や、認知症実践者研修などスキルアップもできるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナ禍で難しいが、今後取り組んでいきたい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを図り、ご本人様のことを知り、不安を少しでも軽減できるよう関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来所された時や、申し込みの際、現在困っていること、不安なこと、要望など何うようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様が必要とされていることをあげ、優先順位を決め、ケアプランに沿って支援するようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様がどのように過ごしたいか考えながら（言える方は本人に伺い）暮らしを共にするような関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様より近況などの問い合わせがあった時は様子が分かりやすいように報告するよう心掛けている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人にはがきを出したりされるときはお手伝いしている。ポストへの投函、ご家族へはがきの依頼など。	友人や知人の方との電話や手紙のやり取りをお手伝いしたり、事業所を尋ねてもらったりしている。また、病院受診で外出する際に、以前住んでいた場所を通ったりして馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方は席を近くにしたりと、配慮している。また、会話中もトラブルにならないよう、必要に応じて仲介に入っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもお手伝いできることはしている。ご家族様よりお手紙をいただくこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のケアの中でスタッフとの会話等で情報収集を行いご本人様の意向確認に努めている。	入居前の生活について本人や家族から聞き取ったり、意思表示の難しい方には日々のケアの中で様子をよく見てこまめに声掛けをし、把握に努めている。実際に、普段はお茶碗を持って食べる方が持たずに食べていたので体調を確認したら、発熱していたことがあった。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報、ご家族様への聞き取り等で確認し、入所後のご本人様との会話の中で把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様に充分声掛けして納得いただいた上でご本人様の有する力等、スタッフ間の申し送り等で把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナの中で、ご家族様とは電話で行い、それぞれの意見等を聞き取りし、介護計画の作成に努めている。	計画作成担当者を中心に話し合っ介護計画を作成している。運動や体操を嫌がられる方は、少し離れた厨房までおやつを取りに行っ体を動かすことに慣れてもらっから、体操を取り入れるなど、利用者の状況に合わせた計画を作成している。現在は家族の方とは電話でやり取りをして介護計画について話し合っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録以外で申し送りノートを活用し、職員間の情報共有を行い、モニタリングを実施し見直している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍でご家族様との連絡は電話で行い、ケア時ご本人様に声掛けしてその都度対応できるようにスタッフ間で共有し取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で現在はできていないが、公園の散歩近隣のお花見等楽しんでいただけるよう落ち着いたら支援していきたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかりつけ医の希望を確認している。	系列の病院に利用者それぞれのかかりつけ医がいるため、すぐに相談することができ、必要に応じて検査や処置が受けられる。家族が同行できない際はその都度情報共有をしており、他科受診や他病院への転院の際も情報共有をしっかりと行っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告、相談をしあいながら適切な対応ができるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	併設の病院（原病院）と連携を取り定期的に情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医を交えて方針等の話し合いを行い事業所としてできることを十分説明している。	入居時に事例を交えて説明を行い、よく理解をもらってから意向を伺って同意を得ている。系列病院の医師、看護師、建物内の特別養護老人ホームの職員などと協力し、家族ともコミュニケーションをとりながら支援に取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行われる施設内勉強会に参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災などの災害訓練を年に2回実施し、消火器の使い方や避難の訓練など実施している。	日ごろから「今、火事や地震があったら」を念頭に業務を行っており、職員同士のコミュニケーションを密にとってチームワークを高めている。地域の方には運営推進会議の際に協力を呼び掛けている。水や食べ物等は建物内全施設共同で3日分を備蓄している。	建物内の全施設の職員と避難訓練を行い、協力体制ができてはいるが、火災の発生場所や規模ごとの避難場所などがあいまいなため、避難場所を決め、より安全な避難ができるようになることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室のドアは閉める、入るときはご本人様に声掛けして入室している。トイレの声掛け時、さりげなく声掛けするようにしている。	トイレ支援、入浴支援の際に必要な以上の露出のないよう気を付けている。また、声掛けの際は場面に応じて声の大きさなどに気を付け、職員同士で注意しあっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	茶話会時に何が飲みたいか聞いたり、洋服もどれを着るか尋ね、自己決定できる機会を作るようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寂しさや不安を感じさせないようレクリエーションを楽しんでいただきながら、個々の自由時間を大切にいただき、声掛けするよう心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が施設内でカットなど受けられるよう訪問理美容サービスを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	箸が進まない方には声掛けしながら召し上がっていただく。食後は食器洗いなどを手伝っていただいている。	料理は建物内の厨房で作っているため、利用者の方とは調理以外のテーブル拭きやコップ洗いなどを一緒に行っている。おやつ時間に時々ホットケーキパーティーや季節のイベントなどを企画し、デコレーションなどを一緒にして楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や、固さ等入居者様に合わせる。水分の少ない方にはお茶ゼリーの提供や容器や味を変えて摂取していただいている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に声掛けし義歯の洗浄、口腔ケアをしていただき清潔にしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意が難しい利用者様の排泄パターンを把握し、時間毎や落ち着かないときはトイレ誘導を行い、何ができるのかを観察し自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの状態に合わせて声掛けや介助を行い、排泄の自立にむけた支援を行っている。トイレの扉に目印をつけたり、トイレの壁と手すりの色が同じため、手すりに印をつけてわかりやすくするなどの工夫をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様には食事や水分をしっかり摂取していただくよう心掛け、食後は便意がなくても便座に座る時間を十分に持ち、筋力低下しないように運動や散歩を行い取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の案内をしたときに無理強いせず希望に沿うようにしている。浴槽に入られるかもその時に確認して介助している。	週2回を基本としているが、希望があれば対応している。入浴拒否の方へは無理強いせず、時間を変えて声掛けしたり、利用者同士で声掛けをしてもらったり、清拭や更衣などで対応している。入浴剤などで入浴を楽しめるようにできないか検討している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないときは一緒にフロアでテレビ視聴して過ごしています。居室内の温度にも配慮し寒いときは湯たんぽなどを使用し、布団内を温めるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、確認している。薬セット時や内服時にはスタッフ2名でダブルチェックし、与薬している。入居者様いつもと違う様子がないかも確認し、必要に応じて看護師に報告している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は決めていないが出来ることをして頂くようにしている。無理強いしないよう気を付けている。嗜好品に関してはコーヒーや紅茶などおやつに合わせ提供している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で遠方への外出はできないが、テラスやベランダ、施設付近の散歩を行っている。	現在は病院の売店に行ったり、ベランダで外気浴をしたり、3階のテラスで日光浴をしたり、施設内を散歩したりしている。車椅子の方でも外出できるようにスロープ付きの車があり、感染状況が落ち着いたら外出しましょうと声掛けをしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持したい方にはお持ちいただき「安心」して頂いています。金額より小銭でも数えることで納得し、安心されています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在の状況の中、電話や手紙での連絡は楽しみの一つになっている。ご家族様からの電話を取り次いだりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開閉で明るさの調整をしている。窓を開け、外の空気を吸っていただいたり、景色を見られたりしている。トイレなどは汚れたらその都度掃除するように気を付けている。	物音や照明、日光、臭い、温度が不快とならないよう声掛け、テレビの音量、遮光、細めな清掃、換気に気を付けている。色々な所に利用者の方と一緒に作った季節の飾りや、塗り絵、貼り絵などが飾ってあり、和やかな雰囲気となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その都度席を移動したり、入居者様がどなたとでも仲良くできるよう配慮している。また、隣のユニットに出かけるときもあり、交流できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内やベッド周りを乱雑にせず、整理整頓に心掛けている。	タンスなどは備え付けのものであるが、自宅で使用していた時計や置物、写真、毛布、タオルケットなどを持参していただいたり、家具の配置などを工夫してその方らしい居室になるようにしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安心、安全に移動できるよう、動線の確保に心掛けている。また、物の置き場所を極力変えないように気を付けている。		